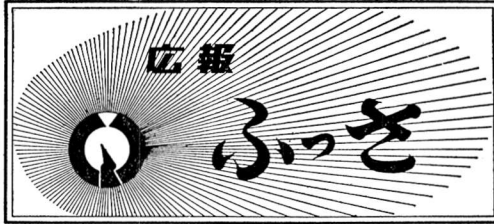


町の人口

昭和41年 7月 1日現在
 住民登録人口31,527人

内 { 男 15,395人
 女 16,132人

世帯数 8,988戸
 (増) 286人
 6月中 (減) 202人



1666. 8. 1

No. 64

発行所 福生町役場

発行兼 調査室
編集人

印刷所 昭和印刷KK

臨海学校



ざらざらと肌をこがす太陽がでる前に、子供たちは、潮風を胸一ぱいすつて朝の体操をする。規則正しい一日の団体生活がここからはじまるのだ。黒潮に洗われるここ千葉県の大網町に第二小学校が臨海学校をはじめたのが、終戦直後の昭和22年、これが臨海学校のきっかけとなつて、各小学校とも毎年実施するようになった。今年も第一、第二小が外房の鶴原、第三、第四小が内房の岩井に全六年生が参加し、海になじみ、さまざまな知識を身をもつて学びとつていく。そして、青い清らかな海の思い出を心にのこし、小学校を巣立つていく。

(写真は第二小学校の臨海学校)

季節の話題

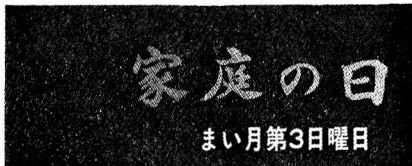
夏 休 み

小、中、高各学校の暑中休暇は八月にはいると本格的になりまふ。高校生ともなれば、それぞれ自分自身で休暇の過ごし方を考え、有意義に過ごすことでしようが、小中学生ではやはり先生や両親の指導のもとに計画的な夏休みを過ごさせてやりましよう。来年受験をひかえている人は、この期間を十分利用して、実力を養成するのもよいでしょう。また、ふだん学習できないところを十分掘りさげて研究するのも楽しいものです。どここの家庭でも、夏休みもあと十日とか一週間とかになると、あれもやつていない、これもやつていないと家族全員が動員され、お手伝いをする風景がみられがちです。そのため、夏休みの後半になると、ノイローゼになる子供さえでてくるというのですが、せめて夏休みがあと一週間ぐらいいいというときまでには、大半の勉強や工作などの目標を終らせるよう指導してやりたいものです。そしてすぐ間近に迫っている二学期への体の調整、精神的安定ということに重点をおいて、ゆつたりとした気持ちで、新学期を迎えられよう。

迎えられよう。
 心をや
 つてや
 ましよ



福生町家庭の日きまる



福生町青少年問題協議会は、七月二〇日午後一時三〇分から、福生町自治会館でおこなわれ、福生町家庭の日を制定することをきめました。家庭の日とは、八月から毎月第三日曜日、家庭全員で楽しく一日を過ごし、明るい健康な家庭をつくるための日です。

この計画は、今まで福生町青少年問題協議会がいろいろ検討してきたのですが、各家庭でもそれぞれ十分検討して、子供たちのよりよい成長のために、全家庭で実施いたしましょう。

家庭の日をすすめるわけ

青少年をとりまく環境は、ますます複雑になり、いろいろな問題がおきています。青少年のよい人格の形成は、青少年自身の自覚と責任によりますが、また、青少年をとりまく環境——殊に家族との関係に大きく影響されます。というのには、家庭が一つには人間の個性(性格)をつくるのに大

きな力があること、二つは、人間の日々の緊張を解放し、感情や情緒を安定させるという力があること、そして、これらの底には「愛情」があるというところにあります。このような家庭のはたらきを、この「家庭の日」を契機に更に強め、福生町のすべての人々の協力で、明るい健康な家庭をつくりあげていきたい、ものだと思います。

各家庭でどうすすめるか

- ▽「家庭の日」をわが家で実施するかどうか、家族みんなで話しあいましょう。
- ▽わが家の良いところ、悪いところを話し合い、その長所を伸ばし、悪いところをなくしまししょう。
- ▽いつから、どのように行なうか、具体的にきめます。この場合、なるべく第三日曜日(今月は八月二十一日)に行なうようにし、やむを得ない時は、できるだけ、それに近い日を選ぶようにしまししょう。
- ▽この日は、家庭みんながつかうをつけて、必ず顔を合わせましよう。
- ▽家族みんなができる活動を必ず行なうようにしまししょう。

活動内容の例

- ① みんなでなごやかに話し合う
- ② それぞれが問題にしたいことを出しあつて、話題を決めましよう。(例TV、お小遣、親)
- ③ 司会を交代してみる
- ④ 話したことをまとめてみましよう。
- ⑤ 決めたことを実行しよう。
- ⑥ テレビをみたり、ラジオをきき、本を読んで話しあつてみましよう。
- ⑦ いっしょに楽しく遊びましよう。
- ⑧ 室内ゲームや歌など。
- ⑨ スポーツ(魚つり、ハイキング、スキー等)

旅行 散歩

- ① レクリエーション計画をたててみたらどうでしょう。
- ② 家事をみんなでおこなう。
- ③ 家庭内外の清掃をしよう。
- ④ せんとくをみんなで。
- ⑤ 食事の準備やあと始末をすんでやろう。
- ⑥ 花だんづくり等の庭の手入れをしよう。
- ⑦ 日曜大工はどうでしょう。
- ⑧ 食卓を美しく、そろつてしよう。
- ⑨ 料理等の工夫をしてみましよう。
- ⑩ 家の中を美しくしよう。
- ⑪ 大掃除をみんなで行なう。
- ⑫ 部屋内のもようがえをしてみましよう。
- ⑬ その他家庭の日にふさわしいことをしよう。
- ⑭ 他の家庭との交歓会をしよう。
- ⑮ 家にいい家族との連絡をとらあおう。

供に注意

- ① 良いことをしている子をほめる。
- ② 三ない運動をすすめる
- ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- ① 少年は悪い本を読まないようにしよう。
- ② 親は悪い本を見せないようにしよう。
- ③ 本屋さんは、悪い本を売らないようにしよう。
- ④ 公的行事の実施、個人的な他家の訪問をさげよう
- ⑤ 官庁等は、公的行事を行なわないようにしその他の団体もこの日はさげる。
- ⑥ 個人的な他家への訪問はさける。
- ⑦ 地域等で家庭の日にあつた行事をするときは、全家庭、全家族が参加できるようにしましよう。
- ⑧ 実施できない家庭へのあたたかい思いやりと協力をしていしましよう。

永久選挙人名簿の縦覧日のお知らせ

八月二十六日—九月九日
午前八時三〇分—午後五時
選挙資格者実態調査にもとづいて、つくられた永久選挙人名簿の縦覧を八月二十六日から九月九日までおこないます。縦覧を終りますと、九月三十日現在で永久選挙人名簿になりますので、よく確かめてください。

農業委員会委員 きまる

福生町農業委員会委員選挙の立候補者の受付けは、去る七月八日から十一日までおこなわれましたが、立候補者の数が定数をこえたため、全員無投票で、つぎのとおり決定いたしました。委員の方々は、農業生産力の発展と農業経営の合理化をはかり、農家の立ちの地位の向上のために働いてくださいます。なお、議案推選による三名、農業協同組合、農業共済組合からの推選による各一名は後日決定いたします。

- 田村 信 福生町大字福生一、二、完
- 森田喜作 〃 〃 〃 四八二
- 石川繁治 〃 〃 〃 七八
- 伊東敬次郎 〃 〃 〃 福生一、二、芸
- 野島隆一 〃 〃 〃 熊川八、一三
- 井上元次郎 〃 〃 〃 一〇二九
- 〃 〃 〃 〃 牛浜 四一



声

突然ですが、お願いがございます。町も最近道路もよくなり、住みよくなつてきましたが、牛浜駅に「トイレ」がないのは、たゞえ小さい駅でも不便だと思えます。物価上昇で、費用もかかるとでししようが、早急に考えていただきたいと思います。
(六月二十五日附の投書から)

お答え

早速、福生駅長さんに問い合わせましたところ、橋上駅舎では便所を設けることは困難であるといふことでした。そこで町としては公衆便所を設けることも考えられますので、敷地の供与を福生駅に申し入れましたところ、駅では無償で貸して下さいとのことですが現在、町財政に余裕がありませんがなるべく早く、財政の見直しがつき次第、公衆便所の設置を検討したいと思います。

- 小野茂時 〃 〃 〃 福生一、〇三
- 高水茂一 〃 〃 〃 熊川三、〇四
- 野島茂雄 〃 〃 〃 〃 六七一
- 小山重一 〃 〃 〃 〃 福生六、〇八
- 古山角一 〃 〃 〃 〃 熊川三、四四

柳通り舗装される

福生駅東口から福生病院につながる柳通りがこのほど舗装されました。この工事は、失対事業として



て全額国と東京都からの補助金で実施されたもので、工事費二八六万円、延長五三三メートル、中六メートルの簡易舗装工事です。これで、ホコリも水たまりもなくなり、福生病院や第二中学校への便利な道路となりました。なおこの道路は、将来は加美平に通ずる中十六メートルの立派な街路に

福生町社会福祉協議会

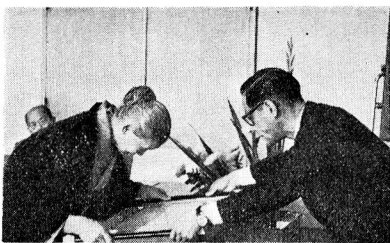
議会議事計画きまる

福生町社会福祉協議会評議会は七月二十六日開催され、本年度事業計画をつぎのとおり決定いたしました。

- ▽子供に遊び場をあたえ、交通事故から守るために、公園、神社境内に遊具を設ける。
- ▽九月十五日の敬老の日に高令者に記念品を贈り、敬老思想を高める。現在の九つつ老人クラブを更に三クラブ増し、活動しやすくしよう、また、他市町村の老人クラブとの交流をはかる。
- ▽母子家庭に入学祝品をおくりまた家庭生活向上技術講習会をおこなう。
- ▽防犯野球、子供会、映画会の助成をする。戦没者叙勲に際し記念品をおくる。
- ▽歳末たすけあい運動をおこなう。
- ▽共同募金運動をおこなう。

永田婦人会の公園パトロール

町を美しくしようという呼びかけにもかかわらず、ゴミの不法投棄が町内にひんばんにおこっています。ここ柳山公園にも、夜になると不法投棄が続出するため、永田の婦人会のひとたちが公園をパトロールして不法投棄者の発見にのりだしています。すでに、すてられたゴミなどを手がかりに現在まで5名の不法投棄者を摘発し、町の美化運動に協力しています。



戦没者叙勲授与式

戦没者叙勲の授与式が7月6日午前10時から役場の三階会議室でおこなわれました。これは太平洋戦争で戦死された方々に内閣総理大臣から叙勲、勲章が送られるものです。戦後20年たつた今でも、遺族の方々の表情には緊張感がたぐい、戦争の悲しさをしみじみと感じさせる静かな授与式でした。



- | 戦没者 | 遺族名 | 戦没者 | 遺族名 |
|------|-------|-------|--------|
| 田中政男 | 田中ナカエ | 並木五十八 | 並木 秀子 |
| 設楽仲三 | 設楽 美知 | 兵曹 | |
| 岸 徹 | 岸 朗 | 兵長 | 笹本正久 |
| 佐藤治作 | 佐藤 ロク | 二等兵曹 | 笹本八十次郎 |
| | | | 大野文男 |
| | | | 大野 梅 |

窓の少ないモルタルづくりの外人ハウス、湿気が多い日本の風土にマッチしないこの家は、わたくしたちの町を訪れる人の目をひきました。現在、町には一五二三戸の外人ハウスがありますが、これはどういう、いささか建てられ、またそれがわたくしたちの町にどんな影響を及ぼしたか、その利害得失をたどってみました。

昭和二十六年は日本が講和条約を結び、長かった占領下から解放された意義ある年でした。また、当時、お隣の朝鮮では、北鮮軍及び中共軍と、アメリカ軍を主力とする国連軍との間に激しい戦いが続いています。そして、講和条約の締結の結果、横田基地内の単身者がアメリカ本土から家族を呼びよせることができるようになり、また朝鮮動乱は、横田基地内に多くの米人を集結させたのであります。このため、米人家族を收容することが困難となり、当時のスチーパー司令官から福生町に「日本人で家をつくつて、貸してくれないか」という依頼がありました。このため一般町民から希望者をつつたのが、外人ハウスのできたはじめです。はじめは一ヶ月三万六千円の家賃という条件で四〇〇戸建てられました。とほし収入に依存していた農家の人たちが、これを見逃すはずがなく、さすつてハウス建設をはじめ町はハウス

ブームにあおられました。建設は昭和三十三年、三十三年をピークに、毎年二〇〇戸から三〇〇戸建てられ、昭和三十五年まで続いたのです。おおよそ、つぎのような結果を町におよぼしました。

▽井戸水が汚染された
ハウスの便所が水洗便所で、吸いこみ式のため、地下水が汚染された。昭和三十七年の都立衛生研究所の調査によると、町の井戸水の中から、多くのアンモニヤ性窒素などの有害なものが検出され、八一%が飲めない結果となつている。この結果、上水道の拡充が必要となり、水道の普及率は急増した。

▽農地面積の減少
ハウスをたてるために、農地面積は減少した。また、ハウスからの固定資産税が増加した。

▽火災が多くなつた
内部が木造造りにもかかわらず、大きな石油ストーブを使うため火災がひんぱんにおこつた。これは横田基地の消防隊と福生町の消防団との連絡を密にした。

▽商店街がうるおつた
基地外に、米人家族がためたに、町の商店街におとす金が増加し、商店街はうるおつた。

▽犬の放し飼いは衛生係の頭痛

基地とまち

② 外人ハウスの話

少

ハウスをたてるために、農地面積は減少した。また、ハウスからの固定資産税が増加した。

少

内部が木造造りにもかかわらず、大きな石油ストーブを使うため火災がひんぱんにおこつた。これは横田基地の消防隊と福生町の消防団との連絡を密にした。

少

基地外に、米人家族がためたに、町の商店街におとす金が増加し、商店街はうるおつた。

の種となつた

▽水道料、固定資産税など、対米人関係事務量が増加した
(次回関係防音校舎と補助道舗装の話)

町内ハウス分布図

● 50 戸
○ 10 戸

ハウスの前に集つたわんぱく連

▽水道料、固定資産税など、対米人関係事務量が増加した
(次回関係防音校舎と補助道舗装の話)

二中学生の作文がう

感想文を寄せてもらった。

広々とした加美平で、二中学生たちは周囲の建設のひびきを聞きながら勉強に励んでいる。開校以来四ヶ月、二中学生たちは、何を考えどんな気持ちで学校生活を送っているのだろうか、新校舎についての感想文を寄せてもらった。

新しい校舎にはいつて

二ノ三 増岡 明美

天上に穴のあいていた教室、いくらいつてもきれいなならぬ黒板、きつだらけの壁、がくがくが机とイス、まつ黒なゆか、外がみえないような窓ガラス、それが一年生のときの私の教室でした。いえ、いまは違うのです。今年設立した福生町立福生第二中学校へ私は通うのです。ほそうされたひろろろとした道路をいくと、四階建てのこじんまりした鉄筋校舎が見えます。それが私の通う学校です。教室は三階、まだ冷房装置はさかなく、窓からはいつてくるすがすがしい風は、こころが吹かないのではないかと思うくらい、とつともすてきな風です。ひろろとした山脈をみわたす静かな学校、みんなで石を拾つた校庭、こんなよい学校は、このへんにはないだろう。私たちは、福生第二中学校の生徒として、未来をつくるためこの学校をすこしずつつみあげる努力をしたいと、大きな希望に胸がふくらんでいます。

三年生になつて

三ノ一 高崎 正美

初めて友達から、わたくしたちが一と二中にわかれると聞いた時は驚きました。最初は信じなかつた私も、だんだん先生達からも聞かされていふうちに、わかれるのに大反対しました。そして、学年朝会の時に反対意見の作文も発表しました。こうしてわたくしたちは不安な気持ちで福生第二中学校の始業式を迎えました。その時校長先生は、「豊かな心を持って、立派なからどをつくれ、積極的になんかとも行動せよ」とおっしゃいました。私はこの言葉を今でもわすれません。なぜかその時不安だった気持ち、ふと今、二になりました。そして、今では一中、二中兄弟校ができたことを嬉しく思っています。新しい校舎、新しい教室も立派な新しい物づくめです。この立派な学校で思い残すことがないよう何かしてみたい。それは、私には不可能かもしれない。私の力は弱いかもしれない。でも、何かの意味で役に立つ時がきたら、そう思つて私は進みたい。また、他人を利用したり、他人に利用されたりしない一人の人間になりたい。

